

フラワータウンのむかし



下深田から見たフラワータウン予定地(1968年頃)



中央は現在の人と自然の博物館付近(1982年)

昔 フラワータウンのあたりは雑木林が茂る丘陵地や畑、水田などが広がる農村地域でした。兵庫県が開発者となり、1973年起工。まちづくりの柱は「住みやすい」「働きやすい」「いこいの場となる」の3つ。1981年には一部地区の入居が始まり、翌年のまちびらきを経て、住宅地として成長しました。

今 日常生活に必要な商業・サービス施設などがまちの中心に立ち並び、大阪・神戸方面への交通手段も整備されています。公共施設(道路、公園など)が整い、緑豊かな景観を保ちながら、戸建住宅や中高層共同住宅といった住宅が点在し、三田の魅力の1つとされる、県立博物館「人と自然の博物館」があるのもこのまちです。



中央ではホロンピア'88開催中(1988年)



狭間が丘から見たフラワータウン

フラワータウンまちびらきからの歩み

- 1981年 ● フラワータウンの入居開始
- 1982年 ● 武庫小学校が開校
まちびらき記念式典(武庫小学校)
- 1983年 ● 狭間中学校が開校
- 1986年 ● 県立北摂三田高等学校が開校
- 1987年 ● 富士が丘で温泉源が発見
- 1988年 ● フラワータウンの橋に花の愛称が決定
狭間小学校が開校
ホロンピア'88 21世紀公園都市博覧会が開会
フローラ88が開業
神戸三田インターチェンジが開業
- 1990年 ● 土地分譲で最高倍率1,414倍を記録
富士小学校が開校
- 1991年 ● 弥生小学校・富士中学校が開校
神戸電鉄(横山・フラワータウン間)が開業



- 1992年 ● 県立人と自然の博物館(ひとはく)が開館、記念式典に秋篠宮ご夫妻がご臨席
- 1995年 ● フラワータウン市民センターが完成
- 2004年 ● 多世代交流館「ふらっと」が開設
- 2013年 ● フラワータウン南公園の愛称が市民投票で「ブイブイの森」に決定
- 2015年 ● ひまわり特別支援学校が開校
- 2016年 ● さんだりハビリテーション病院が開院
- 2022年 ● まちびらき40周年記念イベント「フラワータウンフェスタ2022」を開催
県立人と自然の博物館 新収蔵庫棟「コレクションナリウム」が完成



―特集― 持続可能なまちを目指して みんなが主役のまちづくり

「武庫が丘」・「富士が丘」の4つのエリアからなるフラワータウン。昭和56年(1981年)に三田市初のニュータウンとして入居が始まりました。近郊都市から移り住んだ新しい住民は、三田市が昭和62年(1987年)から人口増加率10年連続全国1位となる契機になり、魅力あるまちへと成長しました。

そんなフラワータウンもまちびらきから40年が経過し、社会環境の変化や住民ニーズの多様化が進み、人口減少、高齢化の進展、住宅や施設の老朽化など時代とともにさまざまな課題が生じ、まちの姿が変わりつつあります。

このため、市は令和2年度からフラワータウンの再生を



今回の特集はフラワータウン40年の歩みを振り返り、フラワータウン再生に向けて取り組む人たちが新しいまちの魅力など、フラワータウンのこれからについて考えます。

令和3年度には住民や企業、有識者などの協力により「フラワータウン再生推進協議会」が発足。「フラワータウン再生ビジョン」を策定し、フラワータウンの再生に向けて本格的な取り組みが始まりました。

■ フラワータウン再生ビジョンとは

フラワータウン再生に向けたまちづくりの方針や取り組みの方向性など、今後10年間の基本的な考え方を取りまとめたものです。フラワータウンが将来にわたって活力を維持し、持続可能なまちとなるために、考えられる中長期的課題について、まちづくりを担う関係者が話し合いました。



空きスペースの活用から生まれる にぎわいと縁

市内農家さんから「食品ロスをなくしたい」という思いを聞き、昨夏、規格外野菜を安価で販売するイベント「ハナマチャオヤプロジェクト」を開催しました。フローラ88の空きスペース活用法として実施した企画は、人だかりができるほど好評で、SDGsにもつながり一石二鳥。その他にも、自転車でアクロパティックな技を繰り出す「BMX」のチームが練習場所に困っていると聞き、弊社が運営する駐車場の屋上部分を貸し出しました。それをきっかけに、秋のイベントでは彼らがパフォーマンスを披露し、会場を盛りあげてくれました。施設を有する弊社の強みを生かし、住民とのWIN-WINの関係を大切に、にぎわいづくり、つながりづくりを広げる取り組みを進めています。今は、若い世代が興味を持ってくれるようなイベントを施設の空きスペースで企画。若者呼び込み、フラワータウンの魅力を知ってもらい、住民の世代循環の流れを創り出していきたいと思えます。



株式会社北摂コミュニティ開発センター
大西 利昌さん

ショッピングセンター、ホール、駐車場などの生活利便施設の運営・管理や居住環境の維持向上を図るサービスを提供する会社。令和5年度で創立50周年。これからもニュータウンの魅力向上に取り組みます。



まちを想い 歩を進める

「もっと楽しく毎日を過ごしたいな」「安心して家族と暮らしたいな」
どんな『まちづくり』も、そんなちよとした想いから始まります。
私たちには何ができるでしょう。

フラワータウンのために、何かできることはないか——人口減少や高齢化など、さまざまな課題がある中で、まちのこれからの考え、まちづくりに取り組む人たちがいます。

そこに行けば何か面白いことがある「場所」を目指して

私たちが取り組むのはサンフラワーの店舗やお客さんと協働で行う「人が集う場所」づくり。フラワータウンの中心地区を訪れる目的はほとんどが買い物で、終わればすぐに家へ帰ってしまいます。買い物という日常生活の延長線上にある身近な場所で楽しい時間や雰囲気を感じてほしくて、サンフラワーで月に一度イベントを開催。コンサートなどを開催し、「何かやっている」「行ってみようかな」と気軽に立ち寄ってもらえる場所を目指しています。市内キッチンカー事業者へ声をかけて飲食ブースを設置するなど、立ち止まってもらう工夫もしています。サンフラワーに自然と人が集まり、楽しい思い出を家族や友人、まちの人と共有してほしい。「にぎやかな場所(イコール)サンフラワー」と思ってもらえるよう頑張ります。フラワータウンの高齢化が進む一方で、パワーのあるシニアがたくさんおられます。まちを元気にするために活動する場所を探している人の受け皿になれるような取り組みも、今後企画していきたいと思っています。

子育て施設やスイミングスクール、パン屋、弁当屋、カフェなどが入居するサンフラワーの運営管理を行う会社。テナントを募集し、市内事業者が働くことができる環境づくりに取り組んでいます。

株式会社サンフラワー
前田 和弘さん



▲館内空きスペースでのマルシェ
▼イベント広場でのコンサート



ちょっとした困りごとのお手伝いで地域を支える

ささえあいふじ
岩崎 悦子さん



「ささえあいふじ」は創設6周年を迎える富士が丘の生活支援ボランティアグループ。高齢者、障害者で支援可能な同居者がいない家のゴミ出し、庭の草取り、話し相手など日頃の暮らしにおける不安や困りごとをサポートする活動に取り組んでいます。

ささえあいふじの活動は、ちょっとした困りごとのお手伝いです。ささえあいふじに入って3年がたち、主に話し相手(傾聴)の活動に取り組んでいます。1人暮らしの高齢者と会話をする。特別な技術を持っているわけではないけど、すごく喜んでくれます。会話の中から、最近の困りごとなどを自然と聞き出し、解決する方法はいつも仲間と相談します。利用者からは「話をすると心が元気になる」「1日スカッと過ごせる」「週に1回のこの日がとても楽しみ」など感謝の言葉をいただき、活動の励みになっています。高齢化に伴い、日常生活をちょっと支えるボランティアの必要性がさらに高まると思います。私たちが対応力をさらに高め、地域をささえの一員でありたいです。

ちょっとした困りごとにお気軽に連絡ください

☎ 090-8522-1843
(ささえあいふじ代表 前田)

対象=富士が丘在住者 ※その他要件、支援内容などの詳細はHP(上記2次元コード)をご確認ください。



誰もがワクワクできる おでかけがあるまち

地区の中心にある商業施設などへの移動に不便・不自由を感じる人が多くなっているため、武庫が丘と狭間が丘でグリーンスローモビリティ(時速20km未満で公道を走ることができる電動車)を活用した実証実験を行いました。外出促進、商業施設の活性化を図るため、住宅街にある乗り場から商業施設までを結びます。実験開始にあたり、運転手の確保や運行コースの決定など、地域の皆さんと試行錯誤を重ねながら進めました。最初、利用者数は伸び悩んでいましたが、ドライバーの皆さんのさまざまな工夫や口コミで増えました。走行中に家の庭から「こんにちは」と声がかかるなど、地域内の認知度もアップ。利用者と運転手の会話など、車内外で住民同士のコミュニケーションも生まれました。今後は本格的な導入に向けて課題を洗い出しながら、「誰もがワクワクできる」おでかけがあるまちの実現にむけ、これからも地域のニーズにあった移動サービスを皆さんと一緒に作りあげていきます。

交通まちづくり課は、地域内交通の検討、公共交通事業者への支援、高齢者運賃助成制度などを担当する部署。世代やライフステージに合わせた新たなモビリティサービスを提供し、フラワータウン内の移動の活性化や地域経済が循環するしくみの構築を目指します。

三田市交通まちづくり課
高寺 千寿子さん



家族の仕事の関係で、7年前にフラワータウンに引っ越してきた小原さん。フラワータウンの魅力について聞きました

フラワータウンは日常生活が完結できるまち

スーパーや子どもの習いごとが身近にあるし、高速道路のインターチェンジが近いから、おでかけにも便利。公園がたくさんあるし、ボランティア活動も盛んで、コミュニティセンターなどでシニアの人が子どもたちに勉強を教えてくれたり、一緒に遊んでくれたりなど多世代が交流し、地域で子育てできる場もあり、今の暮らしにとっても満足しています。

現在は賃貸住宅に住んでいますが、来春子どもが小学生になるタイミングで、フラワータウン内に家を建てることになりました。フラワータウンはすごくいいまちで、大好きなまちです。多くの人に、ぜひフラワータウンを訪れてほしいです。



富士が丘地区 小原 麻梨さん



富士が丘からみたフラワータウン

まちづくりに参加しよう！

～あなたの「何かやってみたい」を応援します～

フラワータウンのまちづくりに関する問い合わせ

- ・フラワータウン地域担当 (フラワータウン市民センター内 562-5555 FAX 560-2102)
・都市政策課ニュータウン再生担当 (559-5127 FAX 559-7400)



キッチンカー出店



フラワータウンフェスタ 2022

令和2年度から始まった「フラワータウンリポーンプロジェクト」は、人口減少や高齢化など大きな社会変化の中での新たなまちづくりの在り方について、フラワータウンをモデルケースとして、模索するものです。

～さまざまな主体が一緒にまちづくり～
社会実験として昨年秋に神戸電鉄フラワータウン駅前の歩道部分にキッチンカーを出店しました。多くの人が集まり、とてもにぎわいました。11月3日に開催された「フラワータウンフェスタ 2022」

では、フラワータウン駅周辺の屋外空間を一体のエリアとして開催。民間事業者や県立人と自然の博物館、NPO法人、市民グループなど産官民の関係者が参加し、互いに協力しながら、さまざまな催しによりまちの活性化を図りました。公共施設の新たな活用や官民の垣根を超えた連携も少しずつ進んでいます。

～まちの未来を自分ごととして考えよう～
「まちづくり」という言葉には、大きな施設を整備するなど、いわゆる「都市計画」のイメージが強いかもしれませんが。定義は色々ありますが、「フラワータウン再生ビジョン」における再生のコンセプトは「フラワータウンの新たな魅力を創造し、多世代に選ばれるまち」。関係するみんなが協力し、イベント開催でまちを盛り上げる活動も立派なまちづくりです。一人一人がフラワータウンのまちづくりに関心を持ち、参加すれば、もっと大きな課題の解決につなげることができるかもしれません。「あなた」はどんなまちにしたいですか。まちづくりの主役は「自分自身」です。自分ごととして「あなた」が動くと、一人一人がパズルのピースのようにつながり、新しいまちの姿が見え始めます。「あなた」がやりたいことは何ですか。何から始めればいいのか分からない、誰かに協力してもらいたいなど、お悩みがあれば気軽に地域担当職員までご相談ください。



三田市都市政策課 岡 秀樹さん



1



3



2

鳥の標本数は本館と合わせる
と日本で2番目の多さ！

- 1. 県立人と自然の博物館開館30周年にあわせ、令和4年10月29日に新収蔵庫棟「コレクションナリウム」がオープン。
2. 植物標本54万点のほか、鳥類や哺乳類の剥製、昆虫類の標本などが保管されている。
3. 公開エリア1階には、展示ギャラリーやイベントなどで使うワークルームがある。

人と自然の博物館(ひとく)
新収蔵庫棟「コレクションナリウム」誕生
50万点超えの標本や剥製を保管



博物館の収蔵庫は宝箱のように大切にされ、博物館の1番奥にあるのが一般的。しかし、「ひとく」は地域の人と標本などの価値を共有できる博物館を目指し、玄関部分にオープンな収蔵庫を配置しました。無料の区画なので、ふらっと立ち寄っていただけますし、1階部分はガラス張りにして、歩道からも館内の様子が見えるようにしています。コレクションナリウムを見て「なにこれ!」「すごっ!」と博物館に興味を持っていただけたらうれしいです。そして、それをきっかけにぜひ本館にも足を運んでみてください。さらに、新収蔵庫棟前にある芝生広場や駐車場は、まちのにぎわいを生み出す場としてさまざまなイベントを開催できる機能も備えています。先日は駐車場にチョークで落書きするイベント(左下写真)を開催しました。フラワータウン地区の中心にある商業施設から一番近く、目立つ場所にできた収蔵庫。フラワータウンの皆さんに「博物館があるまちに暮らしている」と誇りに思ってもらえるように、三田市と二人三脚で収蔵庫を活用したまちづくりの取り組みを進めていきます。



人と自然の博物館 研究員 福本 優さん

【ひとく一時休館のお知らせ】
メンテナンス作業のため2月10日(金)まで、人と自然の博物館は一時休館しています。